

家庭教育だより

52号

監修 元福音館書店「母の友」編集長 勝尾 栄 先生

発行 白井市教育委員会生涯学習課 ☎401 8942

令和6年9月9日発行

絵本がつくる親子の絆 読み聞かせは子どものため…？

「みなさんはなぜ絵本の読み聞かせをするのでしょうか？」
多くの方から「子どもの成長に役立つから」という返事があります。本当にそれだけでしょうか。そこでこれから「親にも良いことがある」ということをお伝えしたいと思います。



絵本は「子どもの読書」

絵本は「絵」と「文字」で構成された本です。子どもは絵本を開くと必ず「絵」を見ますね。それは絵には主人公や主人公の行動が描かれていて、子どもは物語を理解するために「絵」を読んでいるからです。とはいえ大人が文字を「言葉」にしなければ、子どもには物語の内容も主人公の名前も分かりません。つまり子どもは「絵」の中の「言葉」を読みながら、大人の「言葉」を聞いて物語を理解しています。言い換えるなら、絵本は大人が「言葉」にすることを前提に作られた本なので、「読み聞かせ」が必要なのです。この「読み聞かせ」は、子どもに「聞く力」や「想像力」を育てるとも言われています。

親子の関係が変わることで…。

親は子どもを一人前の社会人にしようと日々努力していますから、つい子どもに向かって「ああしなさい」「これはダメ」と指示してしまうことが多いですね。これは「上下関係」です。つまり「親に逆らえない関係」ということです。「読み聞かせ」をする時は、同じ絵本の画面を一緒に見る格好になります。これは子どもに向かって命令する「上下関係」ではなく、同じ目線で絵本を一緒に見ながら語りかける「横並びの関係」へと変化します。

「普段は命令口調の親が、絵本の時間になると違った顔を見せる」という体験が、子どもに良い影響を与えます。「横並びの関係」になると、親も怖い顔をしなくてすみますので、その姿を見た子どもは親に一層親しみを感じるようです。ある成人男性から「子どもの頃、親が絵本を読む時の顔が優しくなったり穏やかな声になるので、読み聞かせの時間が好きだった」という話を聞いたことがあります。それは「読み聞かせ」をしている親もリラックスするからでしょう。絵本を読む時の親が普段と違って

優しく見えたなら、親に対して萎縮しがちな子どもの気持ちを楽しにする効果も望めます。このように親と子がゆったりと過ごせるのが「読み聞かせ」の時間なのです。

親子の絆とは…。

ところでみなさんは「お子さんと一緒に笑った経験」をいくつ思い出せますか？ここで大切なのは「一緒に」です。いくらお子さんが笑っていても、大人が笑っていなければ意味がありません。笑うというのは、心が動いている証拠。楽しい思いで心が満たされている状況です。私は「親子の絆とは、同じ時間や場所を一緒に楽しむことで作られる」と考えています。ですから「お子さんと一緒に笑った経験」は、「親子の絆をつむぐことだ」と言えます。

では「絆」とは、どのようなもののでしょうか？

それは何かあった時に、互いを「しっかりと結びつけるもの」だと考えています。

ここであるお母さんのエピソードを紹介します。いじめで不登校になった小学生のお子さんが、小さい頃に親子で楽しんだ絵本を「読んで」とせがむようになったので、お母さんは繰り返し読み聞かせをしたそうです。やがてお子さんが「こんなに大切にされた私が、あの子に負けているのは嫌だ」と言って登校したそうです。

辛くなった時のお子さんを支えたのは、お母さんと楽しんだ絵本の思い出です。つまり一緒に過ごしたお母さんとの「絆」が支えとなったのだと私は思います。

「親子と一緒に楽しい」と感じる経験は他にもあると思いますが、「読み聞かせ」でも親子が顔を見合わせて「楽しかったね」と笑顔になる経験ができるということです。1冊あたり5～7分ほどの読み聞かせで親子の「絆」が増えると考えて、絵本を読んでみてはいかがでしょうか。



親子で絵本を楽しもう！

絵本は、子どもだけが楽しむものではありません。「読み聞かせ」をしている大人も、一緒に感動したり面白いと共感することができます。あるお母さんは、悲しい物語を「読み聞かせ」をしていたら途中で涙が出てきて読めなくなったそうです。ふと横を見るとお子さんも一緒に泣いていたという話をしてくださいました。お母さんも物語に入り込んでいたので読めなくなったからです。これはお母さんとお子さんが一緒に感動したエピソードだと思います。

「今日起こった嫌なことを『読み聞かせ』でリセットしています」と語ってくれたお母さんもいます。

このように大人も絵本を「読み聞かせ」しながら感動したり気分転換ができます。子どもと一緒に過ごす楽しい経験の一つに、絵本の「読み聞かせ」があり、それは親子関係や絆に繋がっています。お子さんだけが楽しむのではなく、親にも良い経験となるのです。小学校に上がってからも「読み聞かせ」をしている親子はたくさんいます。子どもから「もう結構」と言われるまで、ぜひ「読み聞かせ」を続けていただきたいと思います。